

令和6年度 厚生労働省「看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針」：Ⅴ～Ⅹ

◎良い4点 ○まあ良い3点 △努力2点 ×1点関連がない・不十分

カテゴリー	下位項目	評価内容と基準	R4	R5	R6	評価理由
Ⅴ 経営・管理過程	設置者の意思・指針	37 養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	3	3	4	設置者の意思のもと、養成所としての考えを示し、意思決定しながら組織運営がされている。教職員は教育理念・教育目的の達成に向け、日々、整合性を図りながら、かつ将来のビジョンを持ちながら進めている。
		38 組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか	4	4	4	
		39 組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか	4	4	4	
	財政基盤	40 養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	4	4	4	市の財政的な状況への理解を深めつつ、施設環境や必要な教材教具の充実に向け整備計画を立て、改善への対応は可能な限りしている。福利厚生に関しては、学校独自には十分ではない。
		41 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか	3	3	4	
	施設設備の整備	42 学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもって整備しようとしているかを示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているか	4	4	4	
		43 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか	3	3	3	
		44 学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備は、養成所が設置されている地域環境との関連から検討し、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備しているか	3	3	3	
	学生生活の支援	45 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか	3	3	4	学生支援に関しては、外部からの相談者の配置、学年担当の定期面接等で行っている。多様な学生の割合が多くなり、学修を中断している者もいるが、本人の特性をふまえながら継続的に支援をしている。学校の運営に関しては中長期目標をあげ、年間の目標、運営に活かしている。広報活動の範囲は広がっているが、受験生の減少があることから、内容の見直しや範囲のさらなる拡大を検討していく。
		46 教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか	3	4	4	
	養成所に関する情報提供	47 広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか	3	3	4	
		48 養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画・実施・評価は整合性をもってしているか	3	4	4	自己点検・自己評価は継続的・計画的に行い、フィードバックしている。優先事項は即時対応しているが、カリキュラム運営と授業実践にフィードバックできていないものもあるため改善していく。
	自己点検・自己評価体制	49 自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	4	4	4	
		50 養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか	4	4	3	
Ⅵ 入学	入学者の選抜の考え方と教育理念、教育目的との一貫性	51 教育理念・教育目的の一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか	4	4	4	本校が求める学生像（アドミッションポリシー）を表し、募集要項にも掲載している。大学志向と少子化の影響から入試時期や方法を変更し受験生確保に努めた。入試結果では1名の欠員が発生したため再度、入試方法を検討していく。
		52 選抜の公平性・選抜方法の妥当性・入学希望者開拓への取り組み	4	4	4	
Ⅶ 卒業・就職・進学	進路選択状況と教育理念、教育目的との整合性	53 卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	4	4	4	卒業時の到達度は毎年評価している。就職先での評価の把握、情報交換という点では実施できているが、数年、調査までには至っていない。新カリキュラム学生を対象に調査計画を立案していく。
		54 卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	4	4	2	
	進路選択状況及び卒業後活動状況の評価	55 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか	4	4	4	地域とのつながりや健康面への貢献を意識した教育内容を考え授業・教科外活動を行っており、年々、充実度が上がっている。
		56 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	4	4	4	
		57 社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか	3	4	4	
Ⅷ 地域社会	国際交流	58 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか	3	3	3	国際的視野を広げるための授業科目を設定したが、学生の自己評価では以前、低い数値となっていた。授業内容の実績が計画内容と差異があったため改善していく。3年間の中で年次ごとに国際面に触れる機会を設定していきたい。次年度は1年次の授業科目で国際活動の実績のある講師による授業を予定している。外国人をテーマに看護研究を行った学生が2年続きであり、少数ではあるが随地の場面から問題意識を持ち研究活動に繋げることができていた。研究発表会に参加した在校生からの評価は高く、興味関心を得ていた。
		59 地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか	4	4	4	
	地域社会における資源の活用	60 国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3	4	4	研究活動に対して十分な保障がされていない。過去の研究活動の実績を活かして相互に支援し合うことのできる体制はある。研究的視点での取り組みができる素地づくりから始められるようにしていく。
		61 国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか	2	3	3	
	国際交流のための体制	62 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか	2	2	2	研究活動に十分な保障がされていない。過去の研究活動の実績を活かして相互に支援し合うことのできる体制はある。研究的視点での取り組みができる素地づくりから始められるようにしていく。
		63 留学や海外に置いて看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか	2	2	2	
		64 教員の研究活動は保障（時間的、財政的、環境的）されているか	2	2	2	
	研究活動の保障と評価	65 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか	3	3	3	研究活動に十分な保障がされていない。過去の研究活動の実績を活かして相互に支援し合うことのできる体制はある。研究的視点での取り組みができる素地づくりから始められるようにしていく。
		66 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	3	3	2	
Ⅸ 研究	研究活動の保障と評価	65 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか	3	3	3	研究活動に十分な保障がされていない。過去の研究活動の実績を活かして相互に支援し合うことのできる体制はある。研究的視点での取り組みができる素地づくりから始められるようにしていく。
		66 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	3	3	2	